

---

# Alice

月島真桜

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Alice

### 【Nコード】

N3421D

### 【作者名】

月島真桜

### 【あらすじ】

ねえ？貴方には見える？真っ白い長い髪に真っ白い服、さらに真っ白い靴。頭の前からつま先まで真っ白い女の子なの。でもね、大きな瞳だけは真っ赤なの。それでね。懐中時計を持っていてまるで不思議の国のウサギみたい！あの子は私を不思議の国へ連れて行ってくれるのかしら？

## （前書き）

昔いろいろなものに影響を受けて書いたもののようです。  
人物像は、皆様にお任せ・・・という内容のお話・・・です・・・。

ねえ？

貴方には見える？

真っ白い長い髪に真っ白い服、さらに真っ白い靴。

頭の中からつま先まで真っ白い女の子なの。

でもね、大きな瞳だけは真っ赤なの。

それでね。

懐中時計を持っていてまるで不思議の国のウサギみたい！

あの子は私を不思議の国へ連れて行ってくれるのかしら？

（Alice）

「ねえ、あそこに真っ白い人がいるよ？」

1人の少女が目を輝かせてビルの間を指差して言う。

「何言ってるの？そこには何もいないよ？」

けれど隣にいる友達は不思議そうに少女の言うことを否定する。

「今日の鈴ちゃん変なの。」

そう言って友達は笑う。

「だっているんだよ？あそこに……。あれ？」

鈴はそう言ってもう一度ビルの間を指差す。

けれどそこには誰もいなかった。

「ほら、鈴ちゃんの見間違いだよ。早く帰ろう。」

「……うん」

鈴は友達に促されるまま家路についた。

その後姿を真っ白い少女が見ていることも知らずに……。

その後鈴は行く先々でその少女を見るようになった。

少女はまるで鈴を待っているかのように・・・。

「あの・・・」

鈴がおずおずと話し掛ける。

「り・・・」

「？」

「やっぱり貴方。私のことが見えるのね。」

少女が言う。

その声はまるで悲しみが宿っているかのように・・・。

「当たり前でしょ。他の人だって貴女のこと見えているはずよ。」

「他の人に私は見えないの。私のことが見えるのは私と同じことを

考えている人・・・。」

少女が淡々と言う。

その言葉に少女の目が輝く。

「じゃあ！貴女は、私を別の世界に連れて行ってくれるの!？」

「いいえ。」

少女が即答する。

「違うの？」

「ええ。貴方がその場所に行ったら、後悔しか残らない。」

しょんぼりする鈴に向かって少女は言った。

そして続ける。

「じゃあね。」

「待って!!」

鈴が少女を呼び止める。

「何？」

少女が止まり振りかえる。

「私も連れて行って!」

「駄目よ。」

「後悔なんかしない！」

「駄目。」

「何で!？」

「貴方はココに存在していなければならぬから。それに・・・」  
「？」

「私は貴方になりたくないわ。」

少女はそうとうと悲しそうな笑顔を见せて消えた。  
その後鈴は白い少女を見なくなった。

十

「あら、亜里須。帰ってきたのね。」

声が白い少女に言う。

「あたりまえでしょ？」

「もう帰ってこないかと思った。」

声が楽しそうに言う。

「私はアイツと違うもの」

亜里須も楽しそうに言う。

そして時計を取り出し、目の前にゆらゆらと揺らしながら続ける。

「それに、私の世界はここだしね！」

「そう。それを聞いて安心したわ。」

声は相変わらず楽しそうだ。

そして時計をしまい亜里須はポツリと言う。

「それにアイツに会わない限り私はこの世界の住人でないと・・・」  
「」

「そんなにあの世界が好きだった？それとも身体？」  
声が真剣な口調で聞く。

「どっちも。でも、私はやっぱりこの世界が1番ね！私に1番あつ

ているわ。時間も、日にちも関係ない。それに、歳をとらない」  
亜里須は満面の笑みで声に言う。

（後書き）

3〜4年前だかに書いたものをそのまま掲載してみました。

当時アリスの原作を読んでいないで書いているので内容は凄い事になっていくかもしれません・・・。

このお話は3つあります。

これを含む短編2つと季節物が1つあるようです。

生暖か〜〜い目で読んで楽しんでいただければ嬉しく思います。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3421d/>

---

Alice

2011年6月24日10時53分発行